

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200908		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホームたんぼぼ		
所在地	長崎県佐世保市石坂町177-29		
自己評価作成日	令和5年5月14日	評価結果市町村受理日	令和5年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の存残能力を活かし、それぞれの出来る事のお手伝いをお願いし、生き生きとした生活を送ることが出来るよう支援させて頂いています。 ・コロナが落ち着いたので、天気のいい日にはドライブや買い物、馴染みの場所への外出を行っています。 ・イベントやレクレーションを、利用者様が楽しめる様、職員皆でアイデアを出し考え取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅地にある当ホームは開設から20周年を迎えた。ホームでは入居者と職員がコミュニケーションをとる機会が多く、お互いを認め合いながら穏やかな雰囲気の暮らしの場面が窺える。ホームの歴史と共に入居者の心身の変化を見守る経験豊富な介助は、今後を担う人材育成に繋がり、新たな発想と経験が具体的な支援やホームの運営に活かされている。また、法人として地域の介護の相談役や、独居高齢者の自然災害時の避難先として受け入れる姿勢を持っており、今年度は地域自治会の班長としての役割を担いながら地域に向け介護の専門性を活かした関わりも窺うことができる。入居者の細かな変化を見落とさず、疑問や気づきを丁寧に話し合う職場雰囲気は、入居者や家族へ安心感を与え、より良い介護を提供したいとの職員の思いが強く感じられるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を提示している。毎日声に出し職員と利用者様で共有している。	「笑顔いっぱい・幸せいっぱい・ありがとう」と掲げられた理念は、毎日の入居者と職員の合言葉として活用され、ホームでの暮らしに大切にしたい精神に活かされている。入居者と職員は日常的に会話をする機会が多く、職員は入居者の思いを汲み取りながら新たなアイデアを行事や支援に活かし理念の共有や実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で交流が出来ていなかったが、今回、町内の班長になった事で今まで話すことがなかった方と話すきっかけとなった。	これまでは感染症対策として繋がりを遠慮する傾向にあったが、管理者は今回制限が緩和されたことで地域との接点を増やしていきたいとの意向を持っている。今年度、ホームは地域の自治会役員として住民と関わりを持つ機会も多く、介護の相談を受け専門窓口への紹介や認知症状への具体的な対応方法等情報発信を行った。地域への顔が見える関係構築に向け積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面にて運営推進会議を行っている。意見やアドバイスを受け、サービス向上に活かしている。	前年度は書面開催であったが、今年度より対面開催に戻しホームの現状に触れる機会を持った。会議には行政や地域の公民館長・民生委員の参加があり、日常的な関わりによって良好な関係性が保たれ、項目ごとにそれぞれの立場から活発な意見が出されている。抽出された意見は議事録で共有され、管理者は職員と共に支援を振り返り、業務改善や運営の透明性に取り組んでいる。	前年度より家族への会議参加を呼び掛けているが、家庭の事情などにより会議への参加が困難な状態にある。会議議事録等の配布を通して更なる家族への呼びかけを継続し、アンケートを利用した家族の意見の吸い上げの実施等、家族との運営に関わる更なる取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人のホームページにホームの空き状況などの状況などの掲載があることを伝え、現状報告を行っている。運営推進会議などでホームの取り組みなどを伝え協力関係を築いている。	運営推進会議を通して行政へ運営状況の理解を図り、アクシデント事案等専門機関や関係機関とともに課題解決に向け取り組んでいる。ホームでは子ども110番活動への理解や有事の際の地域の避難場所への姿勢を示し、グループホーム連絡協議会の会議出席を行う事で地域の現状を把握し、他機関との協力関係の構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会や会議で話し合い、身体拘束をしないケアを心がけている。	ホームでは各委員会を中心に研修の機会を持ち、外部研修でのレポートを共有し知識の習得に努めている。今年度は身体拘束への具体的な行為を再確認し、具体的な不適切ケアの事例を通して職員個々の支援の振り返りを行う機会を持った。転倒の危険性の高い入居者への具体的な対応方法などひとつひとつ意見を出し合いながら身体拘束をしないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会や、日頃のケアが虐待にあたらないか気付いた時に話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の方が利用されている。内容については会議の時に話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、詳しく説明を行い理解や納得をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日々の生活の会話の中で聞く機会がある。ご家族には、面会時や電話連絡時尋ねるようにしている。	ホームでは定期的に発行するホーム便りに行事や暮らしぶりを掲載し、活動内容の周知を図っている。家族への現状報告を通して心身の状態への理解に働きかけ、家族の反応に敏感に反応できるよう務めている。伝え方や声のトーンに注意を払いながら信頼や安心感に繋げ、家族との本音が言い合える関係の構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や仕事の中で、意見や提案を聞いている。	定期的に開催される職員会議では入居者の現状や運営について話し合い、それぞれの意見やアイデアが運営に活かされている。話し合われた内容は申し送りノートで共有が図られ、支援の統一に努めている。感染症対策で室内での行事をいかに楽しく過ごすか、入居者の尊厳を保ちつつ安全で安楽な具体的な支援の方法等、知見の共有や人材育成に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、給料の見直し、特定処遇改善もあり以前より良い環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修用のDVDを配布してもらったり、ホーム内の勉強会を行っている。コロナ影響の為、Zoom研修が行われ今まで研修を受けたことがなかった職員が受ける事が出来た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の繋がりや、リモート研修に参加する機会があるのでサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人様とご家族様に要望や不安などを聞き、安心してサービスを利用出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が何に困っていて、何が不安なのかを聞き、安心してサービスが受けられるように信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様と面談し、状況をふまえたサービスの提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方にあつた家事を職員と一緒にしてもらい、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響でご家族参加の行事を開催出来ていなかったため、2ヶ月に1度請求書と一緒に行事を行った写真入りの新聞を郵送しました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会や外出を自粛していたため、電話で連絡が取れるよう支援を行った。	ホームでは入居者の「家に帰りたい」との思いを汲み取り、家族への電話や家族行事への参加、また、自宅への訪問など気軽にできるよう努めている。本音が言えない入居者や遠方への家族に本人の思いを職員が代弁し、会話の中での心の動きに敏感に反応しながら入居者の寂しさに寄り添う支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士の席の配置や、関わり合える支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話があり相談を受ける事もある。相談しやすい関係性を作るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の表情や日常会話から、思いや希望の把握に努めている。	入居前の情報や入居後の行動からその方の行動の理由を職員間で話し合い、生活の中で役割を担う働きかけを行うことでその人らしい暮らしに繋げている。職員間は日常的に入居者と会話を交わすことが多く、その方のこだわりや習慣を知り、入居者が少しずつ失っていく言葉や仕草から本人の思いや意向を汲み取っている。訴えができない本人の不安感を察知し、本人本位の生活を継続できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人から生活歴を聞き取り情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、職員間で情報を共有し残存能力などの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて職員間で話し合い、ケア内容を考えケアプランに活かしている。主治医、訪問看護にも相談しアドバイスをもらっている。	ホームでは職員間で入居者の暮らしぶりや心身の変化に応じて意見を出し合い、家族や職員で方向性が確認しやすい内容で介護計画を立案している。介護計画は入居者の負担感が軽減された単純な内容であることから介護記録にも反映しやすく、実践状況が確認しやすいものとなっている。状態に応じてその都度内容を検討し、心身のレベルを落とさないよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を全職員が把握でき、気づきや変化があった場合は、申し送りノートに記入し共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代わりに受診の対応や、介護タクシーの利用を勧めたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1度、近隣の理容師さんに散髪に来てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医に診てもらう方もおられる。体調不良時は、電話対応をしてくださるので安心できる。	家族の協力によって馴染みのかかりつけ医を継続することも可能であるが、ホームの協力医による定期的な往診が可能であることから、家族と相談後、かかりつけ医を変更する入居者も多くある。医療機関とのやり取りは申し送りノートを通じて職員間で共有を図り、定期的な体調管理や医療連携による訪問看護による助言を受けながら、主治医とのこまめなやり取りで入居者の体調変化にも迅速に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護の日に相談しアドバイスをもらったり、なにかあれば主治医への連絡もして下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの生活状況を伝えたり、入院中は病状を把握し早期退院に向けて相談したり、情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、家族様と事前に話し合い、ホームで出来る事を説明している。	看取り指針を作成し、入居時に家族へ説明を行っている。心身の状態変化に伴う介護度の変更時等に家族と今後の方針について話し合う機会を設けているが、食事面などで医療の必要性が増大すると法人内の施設への移り住みを希望する家族も多く、ホームでの看取りの実施はない。重度化した場合は入居者の状態に応じて家族と話し合いを重ね、本人や家族が納得できる支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は年に一度研修をうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回防災訓練を順番で行っている。災害時の訓練は行っていない。	定期的に避難訓練を実施しており、職員は訓練ごとに入居者と共に手順の振り返りを行っている。日常的な自主点検で職員に対し火元の管理への意識付けを行い、防災に向けて取り組んでいる。前回の目標達成計画として備蓄品の再整備を行い、約3日分の備蓄品の準備を行った。ローリングストック法で食材を日常の食材に活用し、入居者の咀嚼や嚥下状態にあった食材を確認している。	現在は火災を中心とした訓練を行い、地震や風水害の訓練が未実施であった。危険区域の確認はなされているが、ホームは斜面に位置し、土砂災害への不安も窺われる。地震からの火災発生訓練や、ハザードマップの確認・定期的な防災計画の確認など机上での訓練も含め、地域性に応じた訓練を取り入れながら有事の備えとして意識を高める取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ声掛けなど、プライバシーを損なわないように努めている。	法人本部での接遇研修の機会があり、支援の振り返りや誇りを損なわない言葉かけなど学びの機会を持っている。自分自身がされて嫌なことは相手にも行わない事、職員の言葉のトーンや感情に周囲の職員が注意を払い、状況に応じて職員が交代して距離をとるなど不適切ケアに繋がらないよう努めている。入浴や排泄時など肌の露出に配慮し、丁寧な関わりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で行きたい場所や、食べたい物を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングで過ごしたり、希望があれば居室で入床されている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行き自分で洋服を選んで買われたり、好きな色のマニキュアを塗ったり、顔パックなども楽しめる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手なものがあればメニューを変えたり、テーブル拭きや食事前の手指消毒をしてくれたり、順番で食事前の「いただきます。」の号令をかけていただいている。	食事は職員の手作りで調理過程の香りを楽しみ、季節感を取り入れた食材の利用や献立ごとに適温提供ができるよう配慮されている。入居者が楽しみな季節行事では、食事にも彩や雰囲気工夫を凝らし、海苔の代わりに薄焼き卵で巻きずしを調理する等、職員のアイデアが発揮された機会もあった。できる範囲で入居者が食事の準備に参加し、食事を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時15時水分補給を行い、食事中も出来るだけ全部飲んで頂くように声掛けを行っている。それ以外でものどが乾いたら教えて欲しいとお願いしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後見守りし、本人の力に応じて口腔ケアを支援している。夕食後義歯は必ずケースに保管する。週2回洗浄剤で消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用している。時間を見て声掛け誘導を行っている。夜間帯に排泄場所が分からなくなる方には声掛けしトイレ誘導している。	職員は入居者それぞれの排泄方法やタイミングを把握し、排泄の失敗により本人が自信を失わないようケアの実践に努めている。職員は入居者の排泄動作における困難な部分を把握し、自力でできる部分を奪わないケアの実践に努めている。職員は互いに援助技術の差異を無くすよう介助方法を話し合う機会もあり、支援の統一がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやゴボウ茶、水分補給、適度な運動などをして頂き、それでも出ない時には薬を服用して頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は週2回の入浴となっているが、その日の気分や体調を考慮し無理強いせず、次の日に入ってもらおうなどしている。	入居者それぞれのタイミングでの入浴を実施し、ゆっくりと入浴できる環境を大事にした支援に努めている。時には入浴を拒む入居者もみられるが、時間をおいての声掛けや言い回しの工夫によって本人が気分よく入浴できるよう取り組んでいる。入居者それぞれに応じた湯温や入浴の手順を把握し、入居者それぞれが安心して清潔感を保てるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝を希望される方など、その人に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する情報がいつでも確認できるように、個人のケース記録に入れてある。薬の変更時は、業務日誌や申し送りノートで情報の共有をしている。症状の変化も主治医に情報提供を行い、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが出来るお手伝いをお願いしている。ドライブやイベント参加、買い物など気分転換が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日にはドライブや近くの公園に散歩程度の外出をしている。	これまでは感染症対策として外出を控える傾向にあったが、制限が緩和され入居者が行きたい場所へと徐々に範囲を広げている。この春は神社への参拝や弁当を持参して花見に出かけるなど入居者の気分転換を図った。家族からも外出への希望も多く、買い物やドライブ等それぞれの希望に沿った外出先へと出かけることができるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて所持や使用を家族と連携しながら支援している。欲しい物や食べたい物を職員に頼まれたり、一緒に買い物に行かれたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望まれる時は電話をかけて話してもらっています。字を書ける人には年賀状や暑中見舞いに一言書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の換気や清掃、温度調節や温度管理を行っている。季節の花を飾ったり居心地よく過ごせるよう工夫している。	台所に隣接したリビングでは調理の音や香りを楽しむことができ、それぞれに合わせたクッションや座布団の準備があり、入居者同士お互いが寛ぎながら会話を楽しむ居場所が準備されている。木材を使用した空間は温かな雰囲気を作り出し、清潔感が保たれている。円背で自力移動が可能な入居者も自分でトイレの認識ができるよう表示を低い場所に示し、目的の場所に迷わず安心して過ごせる空間づくりできている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は相性を考え配慮している。一人になりたいときは居室へ行かれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使われていた、家具やお仏壇など家族とも相談しながら持ってこられている。転倒リスクのある方は家具の位置を検討して配置するなどしている。	入居以前の習慣が入居後も継続できるよう、家具の配置等家族と話し合いがなされ、自宅で使用していた手回り品や使い慣れた家具、自宅の仏壇をそのままの形で持ち込み、現在もお供え品や仏壇の手入れを行う入居者もいる。それぞれの生活習慣を大切にしたり関わりを持ち、手作りの作品や家族の写真の飾りつけ等、入居者それぞれが安心して生活できる居室づくりができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階に居室がある方でエレベーターの乗り方が分からない方は、入床、起床時に声掛けし誘導している。		